

日本近代茶業は

剣士によつて拓かれた。

それは明治初年のことであつた。

牧之原台地に広がる見渡す限りの茶畑。茶産地・静岡県を象徴するこの眺めが、中條景昭ら旧幕臣たちによつて作り上げられたことはよく知られるところである。しかし近代産業黎明期の明治初期、静岡県が瞬間に全国をリードする製茶技術と生産量を実現し得た理由は、それだけだったろうか？

金谷五和の旧家・河村家に現存する古文書と関連資料、そして史実を繋ぎ合わせ、静岡県島田市の茶産業発展の歴史を語る展覧会の第2弾。見えてくるのは、輸出産業としての茶に目を付けた勝海舟らエリートたちの活躍、刀を鋏に持ち替え膨大な茶葉を供給する茶畑を作り上げた旧幕臣たちの働き、さらに、西洋技術をいち早く吸収し大量生産を機械化の面から支えた技術者との巡り合わせ…。

本展覧会とおして、時代の大きな動きの中、懸命に茶業の発展を支えた人々の息づかいを感じていただければ、幸いである。



1. 山岡鉄舟肖像（旧幕臣、剣術の達人で、中條に茶の生産を助言した人物でもある） 2. 大倉高重肖像（旧幕臣の人で、金谷開墾方の頭並として牧之原へ入植した） 3. 今井信郎肖像（旧幕臣の一人。初倉村の村長も勤めた人物） 4. 高林式担持機（發明者・高林謙三肖像） 5. 金谷茶業研究所内の高等研究会記念写真 6. 河村宗平・女傭小次郎が、心形刀流皆伝の際に中條克太郎景明から譲り受けた鉄砲。もとは山岡鉄舟が中條景昭に贈ったもの 7. 河村家に伝わる拝領刀。徳川家の紋が付いている 8. 管打ち式銃（江戸末期） 9. 一心流兵法表目録一巻 10. 九谷焼の茶器（江戸期） 11. 榛原郡木原同業組合の記念火鉢

御林守河村家に伝わる 当時の貴重な資料を公開。 武士と茶業の関係を 丁寧に紐解く。

江戸時代に、金谷の奥地に広がる幕府直轄の山林『御林（おはやし）』を任された武家であつた河村家。明治維新後、当時の当主・河村宗平は茶業にのめり込み、静岡県中部の茶業発展に貢献した一人となつた。河村家が所蔵する江戸期〜大正期の品々からは、江戸時代の武家の暮らし、武士から茶業研究者への転身、そして明治〜大正期の志太榛原地域の産業のうねりを感じることができるとは、ないだろうか。



御林守河村家

<http://ohayashimorikawamura.at.webry.info>
御林守河村家については、ブログもぜひご覧ください

御林守河村家とは

河村家は平安末期、今の神奈川県山北町に発祥し、室町時代に金谷大代にやってきました。江戸時代には、徳川幕府が豊かな森林資源を確保するために天領とした大代の森を管理する『御林守』の役職を幕府より任ぜられ、名字帯刀を許されて碌を与えられ、幕府の役人を代々務めておりました。

現在の母屋は寛政五年の建築。拝領刀や袴、御林の管理を記録した古文書など、当時の貴重な資料が今も数多く残っています。御林守にまつわる伝来の品々も公開しております。お気軽にお問い合わせください。



御林守河村家：島田市大代 1882

交通アクセス ■新東名「島田金谷I.C.」より車で約10分
■東名「相良牧之原I.C.」より車で約25分 ■国1バイパス「大代I.C.」より車で約10分 ■JR東海道線「金谷駅」より車で約15分 ■富士山静岡空港より車で約35分

お問、合わせ・アクセス
河村隆夫（御林守河村家十五代当主）
0547-46-1648
kabuto@mwc.higlobe.ne.jp